

(様式2)

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102010		
法人名	社会福祉法人 仁成福祉協会		
事業所名	グループホーム しんせい		
所在地	新潟市江南区曾川甲1333番地1		
自己評価作成日	平成24年9月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/15/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成24年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 特別養護老人ホーム にいがた新生園に併設しており、誕生会・納涼祭や看護職員の巡回などグループホームだけではできない事も実施しています。
2. 口腔ケアに力を入れ、誤嚥性肺炎の予防や毎日美味しく食事が出来るよう訪問歯科の先生の支援を受けています。
3. レクリエーション・クラブ・行事では様々なボランティアの方々の協力を得て、外部の人達と接点を持つ良い機会となっています。特に、向いの東曾野木小学校の生徒さん達が来て下さる時は、歌やゲームなどを披露していただき、利用者様も子ども達との交流を楽しまれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームしんせい」は、新潟市でもいち早く開設されたグループホームである。職員は認知症ケアの経験と専門性を積み重ねており、事業所全体のサービスの質は非常に高い。また、法人のバックアップ体制もあり、終末期の住み替え支援や、看護師による健康管理、災害時の対応など、利用者が不安なく暮らすための支援が確立している。

集落から離れたところに位置している不便さはあるが、職員は地域密着型サービスであることを認識し、事業所自身が地域の一員として役割が担えるように、また、利用者が地域の中でこれまでの関係を断ち切らないで過ごせるように、積極的に地域へ出向いて行くことに取り組んでいる。

管理者・職員は、利用者本人が「どんな暮らしを送りたいか」「何を今日したいか」を常に問いかけ、望みが叶えられるように取り組んでいる。「書の個展」の開催を希望した利用者については、作品づくりや個展会場の準備、案内文の送付など、関係者・家族とともに奔走して実現に至り、利用者の生きがいに繋げている。

また、日常のケアの中でも誕生日のケーキを「鯛の生菓子」に変えたり、利用者が慣れ親しんだものを生活空間に取り入れるなど、創意工夫が見られる。

利用者が生きがいを持ちながら、自立して暮らせるように、職員が一丸となって取り組んでいる事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をそれぞれが再確認し実現に向けて努力している。	法人の理念を元に事業所独自の理念を開設時に作り、職員会議や、日常のカンファレンスの中で確認している。理念は掲示を行い、家族にも「お便り」で知らせるなど、周知が図られている。管理者・職員は提供するケアが理念に添って実践できているのか、常に振り返りを行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の交流会や資源回収に参加したり、小学校との交流を行っている。又、自治会の方々から運営推進会議に参加して頂いている。	ボランティアや近隣の小学校の生徒が総合学習の一環として毎年訪れ、利用者も運動会に招待を受けるなど、交流が継続している。地域の中へは「公民館の催事」や「3世代交流会」などに参加しており、また、利用者の一人が毎回「資源回収活動」にも参加している。ただ、事業所が集落から離れていることもあり、地域の方が事業所を訪れる機会はまだまだ少ない。	事業所は、利用者が地域で暮らしていくための基盤づくりに取り組んでいる。今後は更に普段の暮らしの中で、地域の方達が気軽に訪れてくれる取り組みと事業所が地域に出て行く取り組みに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事・交流会に参加する事で情報発信を行っている。又、資源回収に参加したり、書道のサークルにも参加させていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ホームでの現状報告を行い、意見を頂いている。又、利用者の代表の方にも参加してもらっている。その内容は玄関に置き、来訪者がいつでも閲覧出来るようにしている。	自治会長、民生委員、地域包括支援センター、他グループホーム管理者、介護相談員、家族、利用者の参加で、2ヶ月に1回開催している。事業所の取り組みや利用者の状況等の報告のほか、外部評価結果や防災訓練等について議題を出して検討している。会議録は玄関に備え付けて閲覧可能にするとともに、家族にも送付している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員より運営推進会議に参加して頂き、情報交換を行っている。	地域包括支援センター職員や市の介護相談員が運営推進メンバーであるため、市町村の福祉担当者とは手続き等の際に連絡を取り合う関係性にとまっている。	地域密着型サービスを運営し、地域のニーズを把握しながら、より良いサービスを提供していくためには、保険者である市町村との連携は大切である。認知症ケアの実情を報告し施策との整合性を図るため、一緒に取り組んで行かれるような働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や学習会に参加し、部会等でも意識付けるように取り組んでいる。	全職員が「身体拘束はしてはならない」との認識でケアを実施している。鍵についても開錠し、安全を確保しながら、自由な暮らしへの支援を行っている。また、施設内研修に参加し、さらに内部研修、回覧研修を行って周知・徹底が図られるように取り組んでいる。	今後は更に、全職員が共有認識を図るために、口頭による伝達の機会を確保することと、禁止となる具体的な行為についての確認・周知、提供するケアの振り返りを日常的に行っていくことを望みたい。
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や学習会し、職員間でも話し合い意識し防止に努めている。又、地域包括支援センターの研修にも参加している。	施設内研修への参加や伝達研修の実施により、「虐待はあってはならないこと」として全職員が認識している。虐待防止関連法についても認識はあるが、学習機会としては報告書の回覧にとどまっている状況がある。	研修については、出席者による報告書のほか、内容をまとめた記録も整理されている。今後は全職員に伝達研修を行うなど、虐待防止へのより一層の徹底が図られるような工夫や体制づくりを望みたい。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要とされる方がいない為、特別な学習はしてない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に納得、理解を頂いたうえで契約を行っている。解約、改定の際は十分に話し合いの場を作り説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。利用者様からの要望は日常生活の中から伺ったり、会議に参加してもらったりしている。面会時等に不満や要望等を伺い、職員で検討し、運営に活かしている。	利用者からは日常の対話の中で意見・要望を引き出し、要望については必ず記録に残して叶えられるように取り組んでいる。家族には面会時や、お便りを送付する際に意見を寄せてもらえるよう返信用紙を同封する等の取り組みを行い、把握した意見等は運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会やカンファレンス、日々の業務においてスタッフの意見や提案を出し合い検討し、運営に活かしている。	事業所内会議や日常のカンファレンスの中で意見やアイデア・提案が積極的に出されている。事業所の要望や意見は、法人内の各事業所の管理者が参集する全体会議にて提案している。また、管理者は職員の思いや希望、目標等を支援するために毎年個別面談を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	お互いの仕事についてサポートしたり、それぞれの問題点や悩みを聞き仕事内容を改善している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対する研修を運営施設全体で行っている。又、施設内外の研修にも参加しスキルアップに繋げている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会が行う研修に参加し交流を図っている。運営推進会議に近隣のグループホームに参加をして頂き交流を図っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規受け入れ時には、自宅へ伺いご本人様の意向をゆっくり伺い信頼関係を築いている。又、ご本人とご家族でホームに来て頂き不安や困り事を伺っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規受け入れ時には、自宅へ伺い状態等のお話を聞く時間を持ち面接を行っている。又、ご本人と一緒にホームに来て頂き不安や困り事を伺っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に状態確認の連絡を行い現状把握、ケアマネ等へ連絡し、「今」何が必要とされているのか相談検討を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔行ってきた経験や体験等を伺い、日々の生活の中で教えて頂き役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事へのお知らせと参加への声掛けを行う。家族の方々とお話をすることで家族の状況も把握して行く、相談や報告は随時させて頂く。	事業所では、利用者と家族の「家族としての暮らし」を支援しており、イチゴ狩り等の行事と一緒に出かけたり、夕食会に参加してもらうなど利用者と家族が共に過ごす時間や、家族の思いも大切にしている。誕生日には往復書簡を利用して、家族から利用者にお祝いメッセージが届くように取り組んでいる。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には、ゆっくり出来る場所の提供を行っている。	習字サークルや将棋教室、馴染みの床屋などに継続して出かけられるように支援している。また、友人や昔の仕事仲間が訪ねてきた時は、利用者と一緒にゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係もできている。トラブル発生時以外でも見守りに努めている。各自の食席にも配慮を行っている。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方でも、定期的ではなくとも利用者様と一緒に面会に訪れることもある。相談等あればその都度対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から個人の希望や思いを聞き尊重に務めている。	日常的に利用者の思いの把握に取り組んでいる。取り組みの例として、毎朝、今日行いたいことや外出の希望を引き出せるよう声をかけ、実現できるよう支援している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所後でも、ご本人や家族からも今までの生活状況を聞き把握に努め役立っている。	入居以前に自宅訪問を実施し、自宅での生活の様子やこれまでの暮らしについて聞き取りを行っている。また、入居前に利用していたサービス事業所からも情報を得ている。	アセスメント様式の中に、利用者の現役時代の暮らしぶりを書き加える等、より本人を理解するための方策について全職員でアイデアを出し合い、今後もさらに利用者本位の暮らしを支援して行く取り組みを期待したい。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な気付を話し合い共有し、記録に残し、日々の生活に反映している。利用者様各人一日のスケジュールを持っている人にはそれに添うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様家族の意向を参考に作成を行っている。内容についての確認は後日行い、定期的に見直している。又、状態の変化がある時も、見直し、プランに反映させている。	介護計画には事前に把握した利用者・家族の意向が記載されており、個別ファイルに綴じて、全職員が毎日確認しながらケアの実践を行えるようにしている。担当者による毎月のモニタリングのほか、介護認定更新時には全職員で評価を行い、介護計画の見直しを実施している。	介護計画の作成にあたっては、サービス担当者会議にできるだけ利用者・家族からの参加を得て暮らしに対する意向の引き出しを行うとともに、目標達成に向けてそれぞれの役割等について共有を図ることが望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録、個別生活記録には時間を記入し、見やすい工夫を行っている。又、毎朝の申し送り時に情報の共有に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養併設であり、様々なイベント等に参加させてもらっている。又、特養のホールを借りてグループホーム独自のイベントも行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校と交流あり、来所にて歌を唄ったり、ゲームをしたり楽しい時間を過ごしている。又、文化祭や運動会など招待状が届き参加させて頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後グループホームの協力病院での受診を希望される方には職員対応で支援を行っている。又、以前からのかかりつけ医を継続されている方もあり、利用者様、家族の希望に添い行っている。	入居時にかかりつけ医の希望を確認し、意向に合わせて支援している。協力病院への受診については毎回職員対応で受診している。その他の受診についても家族と一緒に同行するなど、受診時の情報を共有しながら、かかりつけ医にも気軽に相談できる関係性を築いている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護師に朝・夕、状況報告にて共有。協力病院の看護師にも相談・助言を随時出来る体制となっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を図り、家族の相談にも常に対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化や終末期についての方針を説明している。又、退所基準についても説明している。ご家族の意向に添った支援を基本としているが、グループホームの状況も説明、理解して頂き、その都度書面等で相談させて頂いている。	入居時に家族・利用者に事業所の方針を説明し、了承を得ている。法人で運営する施設への移行や病院への入院については、利用者・家族・主治医と話し合いながら、意向に添って支援している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	向かいの消防署職員より心肺蘇生法・AEDの講習会を年2回実施し参加している。応急手当については年間予定表に組み込みを行っている。	消防署職員の協力を得て、春・夏に急変時の講習会を実施している。事業所内においても「疥癬発生時の対応」や「誤薬について」等職員の希望に基づき年間研修計画に組み込んで研修を実施し、知識や技術を習得している。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養との災害時対策あり、グループホーム独自でも日中・夜間を想定し行っている。(火災・地震時の避難訓練)地域の民生委員さんより参加して頂いた。	住宅地から離れていることもあり、法人内の備蓄品の整備や連絡・協力体制が確立している。年に2回夜間想定を含む避難訓練を実施しており、地域の民生委員の参加も得ている。平成24年度は避難訓練を周知せず、職員がどうすればいいのかを自らで考えながら行動する訓練を行った。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に添った援助方法で対応。居室に入る時はノックし、利用者様の了解を得て入室している。	全職員が利用者の人格を尊重した対応で、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。個人情報の適正な管理や、浴室内のスクリーン設置等プライバシーの確保が図られている。しかし、寄り添った関係性の中で馴れ合い的な声かけ・態度になっていないか等を振り返る機会は少ない。	利用者との慣れ親しんだ関係性の中でも、利用者に対する言葉かけや語調が誇りを損ねるようなものにならないように、日常的に確認や振り返りを行うことが望ましい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思表示や選択が行い易いように声掛けを行い、選んでいただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は午前中から行っており、利用者様に合ったペースで入浴して頂いている。散歩等希望される利用者様にはその都度付き添い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、美容師(ボランティア)が来園し、希望した髪型にしてもらっている。地域の理髪店に出掛けられる方もいる。外出時等利用者様と相談し洋服を選んでいただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを把握しメニューに反映している。食事の下ごしらえ等出来るところは手伝って頂き一緒に行っている。	利用者の希望を聞きながら献立を一緒に考え、買い物や下ごしらえなど、できる場所に参加してもらい、賑やかに食事準備が行われている。食事中も会話を楽しくしており、和気あいあいとした雰囲気が伺えた。梅干・切干大根・笹団子・ちまき・おはぎづくりなど季節のおやつや保存食品作りも楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の持病や状態に合ったメニューを提供している。食事量・水分量をそれぞれチェック表に記入し低下されてた方には補食等で多く摂って頂ける様に配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣としている。その方の状態に応じ、歯ブラシの他に歯間ブラシ・舌ブラシを使用している。自らは行えない方は職員が一緒に行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様に応じた声掛けを小間めに行い、トイレに行かれた時は付き添いしている。排泄チェック表により管理している。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間誘導等を行うことで、トイレでの排泄を支援しており、入居当初の状態より排泄用品の使用が改善している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に乳製品やバナナを提供したり、水分補給を重視している。便秘に良く効く食べ物を毎日の食事に取り入れるようにしている。又、朝食後にラジオ体操を行い体を動かしている。利用者様の希望に応じ歩行訓練を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の習慣や希望に合わせて入浴している。又、ゆっくりと時間が取れるように配慮し、状況により清拭、更衣も実施している。	時間や曜日回数に制限はなく、利用者の希望や状態により自由な入浴を支援している。気の合う利用者同士で入浴することもあり、夜間の入浴についても希望があれば対応できる体制を整えている。菖蒲湯など季節感を味わいながら入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はあるが、利用者様の希望によってはテレビを見て頂く時もある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の内容を個人別受診ファイルで管理し、いつでも確認することができる。頓服薬についても朝夕の申し送り時に伝え、介護日誌にも記録している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の好みでいつでもお茶・コーヒー等飲んで頂いている。歌の好きな方にはDVD・CDを楽しんで頂いたり、園芸の好きな方にはホームの花の手入れを担当してもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物・散歩・ドライブ等日常的に外出している。毎狩り・足湯ツアーなどにも出掛けた。毎月、行事を企画し外出の機会を作っている。ご家族が参加出来る場ももうけている。利用者様の希望で外出に出掛けた。	敷地が広く周囲は田園地帯で、天気の良いときには毎日散歩に出かけている。公民館で行われているサークルや生き生きサロンへの参加や買い物など、利用者の希望に添った外出支援を行っている。また、イチゴ・葡萄狩りや温泉、花見など季節ごとに出かけているほか、個々の希望に応じて焼き鳥店や墓参りなどにも出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	個人所持は行っていない。家族の了解にてホームで管理し、日常必要な物・利用者様の欲しい物はその中から購入させて頂いている。3ヶ月毎にレシートをつけて預かり金報告を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があればいつでも電話をかけたり手紙を書いたり支援は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから眺められるように外には花や木を植え季節を感じられるようにしている。季節に合った小物等で飾り付けを行っている。一緒に飾り付けを行う事で季節感を感じて頂いている。	共用空間には季節が感じられる花を飾り、茶箱などの昔馴染みの置物で家庭的な雰囲気をつくり出している。ソファの配置やカバーの配色、椅子の滑りどめなど、随所に利用者が居心地良く生活できるような工夫や配慮がなされている。	共用空間の壁には利用者の作品や方言集などが掲示されているが、利用者には見えにくい高さである。利用者の目線に合わせた掲示の方法など今後の工夫に期待したい。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き利用者様の所定の場所やお気に入りの場所がある。又、ホームの東西にソファを配置し利用者様の談話の場となっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使用されている家具等慣れ親しんでいる物を持ち込んで頂き、落ち着いて生活出来るようにして頂いている。	入居時に使い慣れた家具や思い出の品を持ち込んでもらい、入居後も写真や手作りの作品などを飾って一人ひとりが落ち着いて過ごせる環境づくりに努めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の意欲を踏まえた中での支援を心がけている。各居室の入り口には大きく名前を掲示し分かり易いようにしている。トイレや浴室も分かりやすい言葉で工夫している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない